

光受寺通信

NO.176

Reli 発行
発行元 光受寺



昨年を象徴する一字は「税」ということでした。私は意外な言葉に驚きはしましたが、「なるほど」「そういうことなんだと変に納得し、改めて変容しつつある日本人の心の淋しさを覚えました。

世界では戦争が止むことなく続いています。日本においては戦争とはないものの、殺人は日常茶飯事のように発生し、人を騙すことなどへの罪悪感や極めて低く人と人の結びつきはどんどん希薄になってきています。自分のことしか考えていない人も多くなり、「損か得か」そんなことばかりが生きる基準となっているように思えてくるのです。

「昔は何もなかったが、何かがあった。今は何でもあるが何か足りない」
同朋会館 日めぐり法語 より

「経済至上主義」は、大切なものを見えなくさせてしまったように思えます。私たちが本当の幸せに生きるために何が「必要なもの、こと」かを、今こそ真剣に考える時機ではないかと思われてきたのです。

通信、先月号でも同じような思いを書いているのですが、今年一年を振り返り、今の日本を思う時、私にとって一番の関心事となつてくるからです。

年が暮れ、嫌だ、不幸だと思ったことは「忘年」し、新年を迎えて「おめでと〜」の言葉に期待を込める繰り返し。人生。人間は忘れることができるから生きられるのか「自分の都合」で言っている人もいるけれど、決して忘れてはいけないこともあると思っております。

年の初めにあたり

総代 三輪 豊

明けましておめでと〜ございます。皆様には良い年をお迎えのことと存じます。新型「コロナ」で心配な年末年始も過ぎ、多少以前の生活に戻ることができたかと思えます。

しかし、手放しに喜ぶことなく、また不安ばかりをのらせることなく、この3年半ほどの出来事を顧みて、教訓として生かしていくことが大切だと思います。

また昨年は、今まで表に出てくることになかった(意図的に隠されて報道されなかった)ことが沢山話題になりました。地球温暖化・戦争と貧困・政治や税金・宗教の多額寄付・芸能界や職場のハラスメント・不正な検査…。

すべての人が本当に平和で穏やかな生活を送ることができるとは思えません。人間は偏見、不正、ハラスメント、争い、戦争を無くすることはできないのでしょうか。

今年は時々仏教など宗教の力(弱者を大切にできる力、寛容な力)で解決できる糸口を見つけてくれることも考えてはどうかでしょうか。

役員交代

お世話になりました。



お世話になります。

本年もご協力ありがとうございました。

お願い申し上げます。

皆様にとつて意義ある人生となり

なりますように。



ゆったりと
しなやかに
生きる。

—飛龍梅—

長い間お世話いただきました総代でもあり、門徒会役員であった三ツ木の米山寛司様に代わり、同じ三ツ木の米山 薫様に新総代としてご着任いただきました。

また、総代でもある三輪 豊様には門徒会役員として米山寛司様の後任に就いていただくこととなりました。

また新しい新メンバーでのスタートとなりましたが、役員様を中心に皆様と共に光受寺興隆の為、力を尽くしてまいりますのでよろしくお願ひいたします。

年に一度の報恩講。親鸞聖人の御前にこの身を置き、師恩への感謝の心を表わす真宗門徒においてはもつとも大切に行事です。

コロナ下にあつて、数年の間は簡略化した形での報恩講ではありましたが、この日は幸いにしてお天気にも恵まれ、多くの方に参拝をいただくことができました。お齋(とき)はお弁当形式ではありませんでしたが、ほぼ例年通りに執り行うことができました。多くの皆さまの「尽力」によって滞りなくお勤めすることができました。このことを「ご報告」いたしますとともに深く御礼を申し上げます。

新発心(しんぱち)初めての出仕(しゅっし)。

本年夏、お得度を受けました孫娘二人が、午前のお勤めに出仕をしてくれました。

親鸞聖人の9歳でのお得度よりは、少し遅れてのお得度となりましたが、今年一年におこつてもありませんがたい出来事でした。

まだ習ったての正信偈ですが、一生懸命に読んでくわていたように思っています。この経験は孫たちにとつて、一生忘れられないこととして、記憶に残るじつだと思えます。これから「ご挨拶」も出来ずじまいでしたが、今後ともよろこび「指導」のほうをお願い申し上げます。



明日ありと

思つ心の仇(あだ)桜

夜半(よわ)に風の

吹かぬものは

親鸞聖人

この歌は親鸞聖人が、9歳でお得度をされたときに詠まれた歌だとされています。

夜も遅いから明日にしようとの申し出で、「この世のものがいかに移り変わりやすいかを桜の花に譬(たと)えて歌われた歌です。人生は予測不可能であり、どんなに安定しているように見えるものも一変してしまい、あてにはならないといひたいです。

おみがきありがとうございました。

十一月四日(月)報恩講に向けての「おみがき」を多くの皆さんにご協力いただきました。

おかげをもちまして、ピカピカになった仏具をお荘厳(しょうこん)しよう(ん)することができました。

ある人曰く「新聞紙が一番やな」と、つまり新聞紙で磨くのが、仏具を磨くのにどんなものよりも効果的に汚れが落ちるといひつう。

確かにそのようです。皆さんも試してみてください。



総会資料 訂正とお詫び

・事業報告 おみがき

参加者「芳名 加淵 カヨ 様 ↓ 馬淵 カヨ 様 大変失礼をいたしました。ご訂正のほどよろしくお願ひします。

お知らせ

光受寺学習会…一月二十日(土)午後2時より

本年初めての開催となります。厳寒の時期ではありませんが、今年の笑顔を確かめ合いたいと思います。新しい一日一日を豊な心で生きられますように。

お寺サロン…一月十八日(木)午後一時半～二時半

廣専寺にて

正信偈には何が書いてあるの? 他 仏教小断等 多くの方のご参加お待ちいたしております。